

## 令和 5 年度 福祉文教委員会 第 1 回議会報告会

令和 5 年 1 2 月 8 日

委員長 【 川上 秀範 】

議会報告会実施計画	委員会 テーマ	不登校児童生徒への支援について		
	テーマ 設定目的	令和 6 年度から開設される御殿場市教育支援センターへの政策提言に資するため		
	対象団体	市内小・中学校PTA会長（副会長）、社会教育委員、民生委員児童委員及び主任児童委員		
	調整事項	実施日	令和 5 年 1 1 月 1 8 日（土）	
		時間	午後 1 時 3 0 分	～ 午後 3 時 3 0 分
		会場	市役所東館 3 階 第 1 ・ 第 2 委員会室外	
		出席 予定者	福祉文教委員会委員 6 名 市内小・中学校PTA会長 外最大 3 0 名	
事前準備	役割 分担	挨拶・基調報告・講評：川上委員長 司会進行： 本多委員                  グループワーク：全員 案内通知作成：阿久根委員		
	資料	基調報告資料： 川上委員長          レジユメ：土屋副委員長		
	その他			
備考	行政視察した内容を基調報告した後、3グループに分かれ、ワークショップ形式で、問題や課題の抽出、また共有して取り組んでいくべきこと等を意見交換する。			

議会報告会実施報告	実施日時	実施日	令和 5 年 1 1 月 1 8 日（土）		
		時間	午後 1 時 3 0 分	～ 午後 3 時 3 0 分	
		会場	市役所東館 3 階 第 1 ・ 第 2 委員会室外		
	参加者	当日	福祉文教委員会委員 6 名		
		参加者	市内小中学校PTA会長（副会長） 1 1 名 社会教育委員 3 名 民生委員児童委員・主任児童委員 1 4 名		
	実施内容 概要	報告会テーマ「不登校児童・生徒への支援について」 行政視察による研修事項の基調報告後、3グループに分かれ、テーマを基に以下の論点について、ワークショップ形式で不登校児童生徒への支援に向けて支援の環境づくり（学校・地域・家庭・関係機関に求められること）をどのようにしていくか、活発な意見交換を行い、今後もこのような意見交換会を継続していくことを市民からも求められ、報告会を終了した。			
報告書	報告書作成	委員全員提出、委員長まとめ		詳細は別紙	
	市議会だより	川上委員長		原稿は後日	
備考					

## 別紙様式 2

## 議会報告会実施報告書

開催日時	令和5年11月18日(土) 午後1時30分～午後3時30分	
開催場所	市役所東館第1・2委員会室 ほか	
テーマ	令和6年度から開設される御殿場市教育支援センターへの政策提言に資するため	
出席議員	司会者	本多 丞次
	報告者	基調報告：川 上 秀 範
	その他	ワークショップのグループ A：川 上 秀 範・神 野 義 孝 B：土 屋 光 行・本 多 丞 次 C：田 代 耕 一・阿久根 真 一
参加人数	福祉文教委員 6名 と 市内小中学校 PTA 会長(副会長) 11名 社会教育委員 3名 民生委員児童委員・主任児童委員 14名	
実施内容	<p>「教育関係の充実化」を年間テーマとし、行政視察をした内容を基調報告した。</p> <p>その後、3グループに分かれ、議会報告会のテーマ「不登校児童生徒への支援について」をワークショップ形式で、意見交換を行った。</p> <p>&lt;論点&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「不登校児童生徒への支援について」、支援の環境づくりをどのようにしていくか(学校・地域・家庭・関係機関に求められることは何か)。</li> </ul>	
主な意見・提言等	別紙の報告書及びアンケート集計結果のとおり。	

以上のとおり、報告します。

令和5年12月8日

御殿場市議会議長 様

御殿場市議会 福祉文教委員会 委員長 川上 秀範



## 1. 報告会の概要（報告会対象者・準備・実施）

（報告会対象者）

- ・御殿場市立の各小学校・中学校の PTA 会長（若しくは副会長）・・・16名
- ・御殿場市教育委員会の社会教育員・・・3名
- ・御殿場市民生委員児童員協議会地区会長及び、主任児童委員・・・16名

当日は、学校行事など重複していることもあり、最終的に28名に参加いただいた。

参加者からは、事前に「不登校児童生徒の予備知識や情報を得た方が良いか」との問い合わせがあったが、委員会としてもテーマに関してこれから取り組んでいく課題であり、不要である旨を伝え参加して頂いた。

（準備）

・委員会年間テーマ「教育関係の充実化」とし、7月3日～5日に前期行政視察実施後、議会報告会のテーマを「不登校児童生徒への支援について」と全委員にて決定。

・その後、報告会に向け内容の充実化を図るため、令和5年9月5日 不登校児童生徒を持つ（もしくは過去に不登校であった）経験を持たれた3名の保護者の方と、委員全員とで意見交換会実施。

・続いて10月5日では、テーマに沿った先進地へ後期行政視察を行い報告会へ臨むことが出来た。

（実施）

・実施計画書に沿って報告会を実施。委員メンバーで役割分担・担当を決め、また、事務局の支援もあり円滑な報告会対応となった。

・グループワークのテーマは「支援の環境づくりをどのようにしていくか」とし、キーワードを学校・地域・家庭・関係機関もとめられることに設定し、意見交換を行った。

（計画上時間を50分としていたが、その前後の次第を調整することで予定より10分ほどグループワークに多く時間を使うことが出来たが、ここにもっと時間をかけられる運営にしたほうが、より深い議論が出来たと思う。）

## 2. GW テーマ「支援の環境づくりをどのようにしていくか」(参加者の意見を集約)

### <学校>

- ・オンライン授業の導入、リモート学習の充実 ⇒ 参加できれば出席扱いとする
- ・リモート出席用カリキュラム構築 ⇒ 学習機会の確保 (普通クラスと同等の学習を身に付けるように)
- ・不登校児童生徒になってしまった際の学校の体制づくり (教職員が少ない中どのように対応するのか)
- ・教職員以外の相談できる人を設ける ⇒ 支援の実行と担任の先生の切り離し
- ・SC やこれまで相談してきた担当が年度切り替え時に配置換えとなってしまう、それまで築いてきた信頼関係がゼロになってしまうことへの改善
- ・保護者からのクレームに対する、専門的人材の確保
- ・不登校という呼び名をやめる ⇒ イメージが悪い
- ・課外学習の充実化
- ・いじめ、不登校など情報公開
- ・各学校に1つは自主学習ができる場所を ⇒ 学校内での居場所づくり
- ・今、子どもが少なくなっており、不登校問題など大きく取り上げられて良い方向である



### <地域>

- ・高齢者と子ども達との交流の場を増やす
- ・生まれた時から地域とのかかわりをもてる環境を育てる、創る
- ・地域行事やイベントなどに子ども達が参加できるようになる企画 ⇒ コロナの影響もあり、地域のつながりが希薄化しているため、少しでも地域の活動を復活し子どもが参加できる仕組み作り
- ・あいさつ運動や、子ども達に声掛けできる体制づくり
- ・各支部の役員の中にいじめいや不登校児童生徒への相談員的な係を設ける
- ・不登校児童生徒へ、農業体験や個人事業主の仕事など体験する場を提供する
- ・不登校児童生徒が行ける居場所作り (その対応者も必要である)
- ・地域での子育てサポート (子ども食堂、居場所づくり、相談窓口)

### <家庭>

- ・学校、先生との信頼関係を築くこと
- ・最低限として家庭が安心できる場所となること
- ・夫婦仲よく、家庭円満であることが家族の基盤。それが子どもたちの生活に全て反映されることになる
- ・親が周りの人を尊敬できるようになれば子どもにも伝わる
- ・家族全員で一緒に何か仕事をする ⇒ 共同作業で絆を深める
- ・家庭内での挨拶を徹底、当たり前のことだが親と話すきっかけ作り
- ・家族団らんの場を意図的に作り、家庭内で学校の出来事などを話す場を
- ・子どもを守りすぎない、過保護にしない



- ・保護者が学校に行かせる努力をする
- ・家庭の形が変わり、特に母親の負担は増えているのでそこに支援を ⇒ 母親を支える体制
- ・保護者同士の連携、サポート

<その他関係機関>

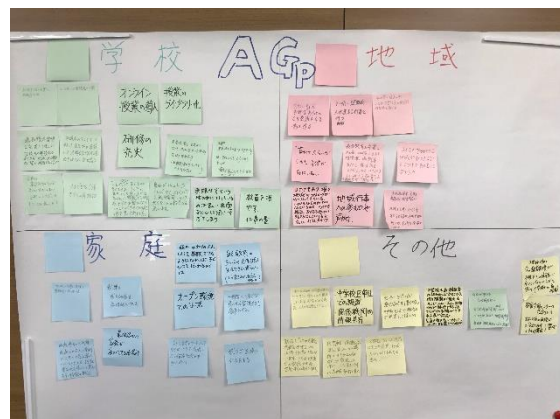
◇教育支援センター

- ・松山市や甲府市の様に学校に戻すのではなく、社会復帰を目標にしてもらうことに賛成
- ・中学校単位での教育支援センターの設置
- ・移動相談センターのようなもので巡回してほしい
- ・交通の利便性が良いところにセンターを設置してもらいたい
- ・不登校から離脱するためのプログラムの作成
- ・支援センター職員に不登校となった児童生徒自身の事を深く知ってもらうこと
- ・学習機会の確保（普通クラスと同等の学習を身に付けることができる）
- ・高校への進学を見据えた学習指導
- ・不登校児童生徒にとって支援センターは最後の砦である。センターへの通学は不登校からの脱却の初めの一歩であり、まずはここに来てくれることに意義がある



◇その他

- ・けやき館の更なる拡充
- ・不登校も義務教育が終われば引きこもりとなる。対応する機関が変わるためスムーズに相談が移行できるよう繋がった支援が出来る体制を
- ・出張カウンセラーの設置
- ・不登校児童生徒が行けるセンター以外の居場所作り（その対応者も必要である）
- ・教育にかかる公的費用の増額



### 3. 各委員からの感想

- ・報告会では、各メンバーがそれぞれの立場で職務を全うし、報告会当日の目的を達成できた。
- ・基調報告で、不登校児童生徒の現状を知っていただく機会となったこと。また、基調報告内での本市の現状（令和3年度中学生では20人に1人、小学生では83人に1人が、不登校・又は不登校予備軍という状況）の情報をお伝えした際の会場の雰囲気から、参加者からは身近な課題であることという意識が生じたのではないかと推測される。
- ・グループワークでは、当局の施策に反映させる良い意見がかなり出たが、不登校者本人や保護者などの立場からの願いなどを考慮した対応が求められていると感じた。
- ・本件に対する委員会及び事務局の対応は大変熱心に取り組んできた。また、参加者からは積極的発言があり、アンケート結果からも満足されたものとする。

### 4. まとめ

年間テーマを「教育関係の充実化」とし先進地への視察を行う中で、全国的にも、そして本市においても不登校児童生徒の現況は喫緊の課題であると全委員が認識し、議会報告会テーマを「不登校児童生徒への支援について」として進めてきた。今や社会的問題となっているこの「不登校児童生徒」への支援をどの様にしていけばよいのか。正直、「不登校」は、非常にセンシティブな内容であり、中々、踏み込んでいくには躊躇する問題だが、正に今回委員会として一步踏み出したところである。

報告会にお集まりいただいた方々に、先ずは基調報告で現状を知っていただく機会となる事を目的とし、実施することが出来たと思う。

子ども達に近い立場である参加者からは、不登校児童生徒への支援を含め、様々なご意見を頂戴する貴重な機会となった。その中から、不登校になってからでは遅い。ならないための予防が大事であり家庭、学校、地域で子どもたちを見守り、積極的に口出ししていくことが今必要とされていることを強く感じた。また、来年4月に設立される教育支援センターに対する要望がどのように活かされていくのかを期待する声が大きかったことから、今後何らかの形でお示しすることを検討したい。

最後に、本市では「御殿場市子ども条例」や「御殿場市子ども条例行動計画」にあるように、社会総がかりで子ども達を育てていく必要があると考える。

以上



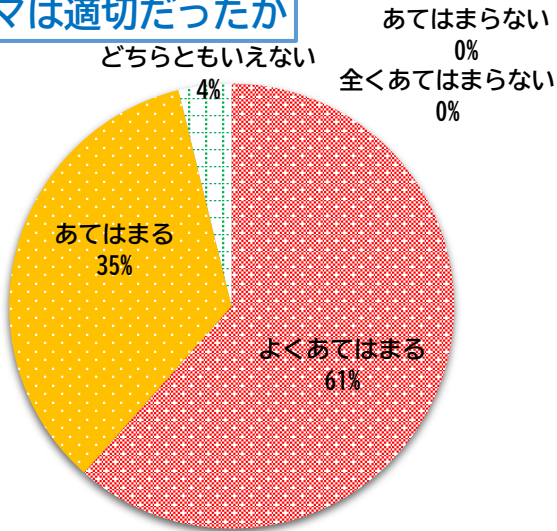
# 御殿場市議会福祉文教委員会 議会報告会アンケート結果

日 時：令和5年11月18日（土）

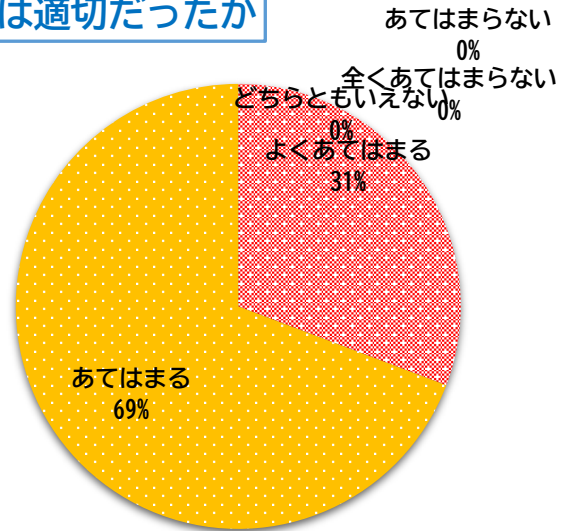
午後1時30分～午後3時30分

参加者：28人（回答者26人）

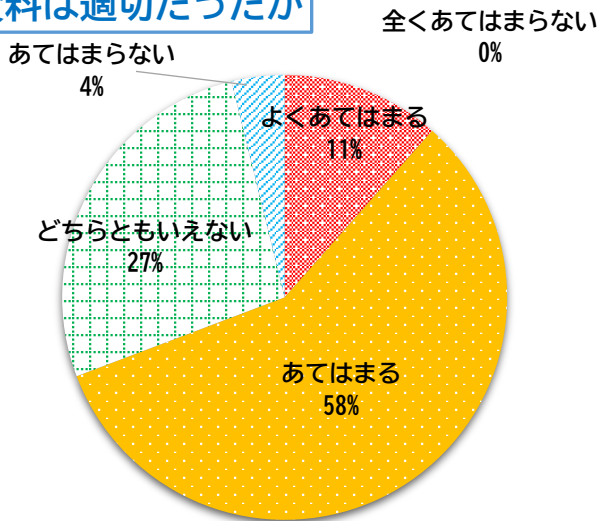
## テーマは適切だったか



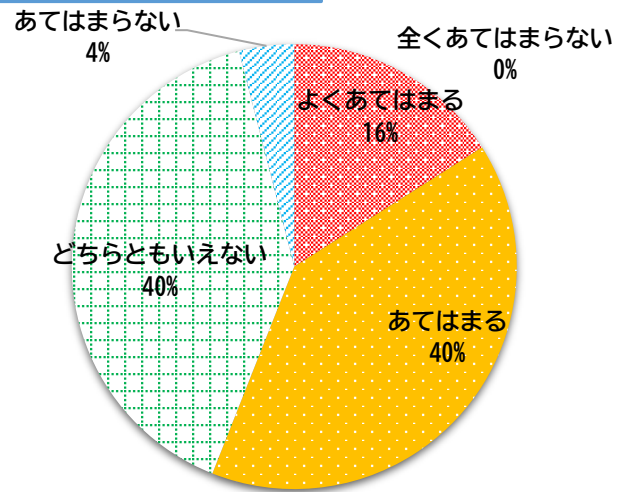
## 運営は適切だったか



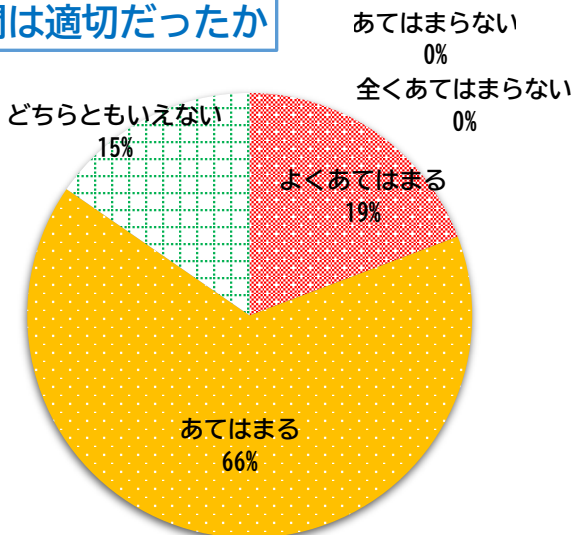
## 資料は適切だったか



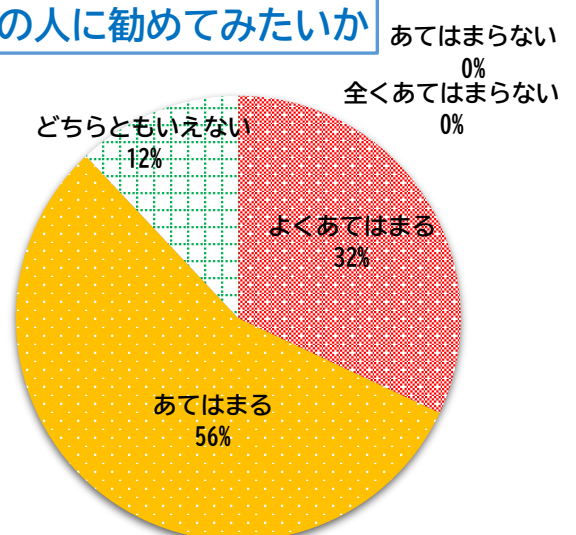
## 時期は適切だったか



## 時間は適切だったか



## ほかの人に勧めてみたいか



## 報告会に関して改善した方がよい点・ご要望等

- ・難しい問題に取り組んで貰えたと思う。今後もこのような報告会を引続き取組んでほしい。
- ・教育支援センターに期待するが、建物ではなく内容が大切だと思いました。
- ・グループワークで、様々な分野の方と意見交換できて、とても勉強になった。もっと多くの方に知ってほしいとこともたくさんあったので、このような機会を増やしてほしい。
- ・教員や支援員の方も参加した方が良い。
- ・現学校長・教頭にも出席してもらった方が良かった。
- ・グループワークの時間が短い。
- ・グループワークで課題は出されたが、対策まで踏み込んだ話ができなかった。
- ・いろいろな角度から多くの意見が出たので良かった。
- ・事前に資料の配布があるとよかった。
- ・事前資料の配布がある方がスムーズな進行ができると思った。
- ・充実した時間であった。
- ・教育支援センターの設立が楽しみです。
- ・もう少し具体的な内容を話してもらえると、わかり易かった。
- ・不登校児の具体的な内容がわかる資料を用意した方が良かった。
- ・市の現在の不登校の現状をもう少し詳しく提示してほしい。
- ・グループワークの内容をもう少し絞った方が良かった。
- ・今後のフィードバックの提示
- ・良い取組みであると思うので、各地区単位で行ってはどうか。
- ・このような報告会があることは素晴らしいことだと思った。これからも開かれた委員会（議会）であって欲しい。
- ・このような会を開いていただいて、大変勉強になった。

## 議会へ伝えたいこと

- ・引き続きこのような取組みを続けて欲しい。
- ・市民のために力を注いでもらうのはもちろん、弱者にも手を差し伸べて欲しい。
- ・教育支援センターが出来ることに大いに期待する。
- ・規模を小さくしても、このような会をできる範囲で継続して検証してほしい。
- ・子供たちのために、しっかり予算取りをして、市内の教育環境を整えて欲しい。
- ・毎年報告会を行ってほしい。
- ・もっと地域へ声掛けをして欲しい。
- ・市民の意見をきいてもらい、有難かった。
- ・教育支援センター開設前の準備が大切。色々な人の意見を聞いた方が良い。
- ・グループワークでの要望等が、その後生かされたかどうか、または、教育支援センターがどのように出来ていくのか、今後の報告を何らかの形でして欲しい。



令和5年度

# 御殿場市議会

# 議会報告会

実施計画書

## 福祉文教委員会

〈テーマ〉

不登校児童生徒への支援について

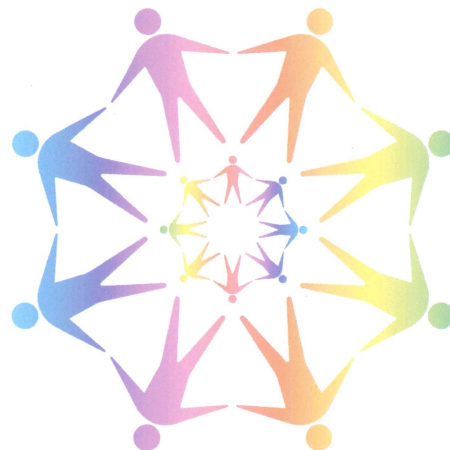
SDGSの関連目標「3・4」を中心にした議会の取り組み

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



GOAL 3 すべての人に健康と福祉を

GOAL 4 質の高い教育をみんなに



日時 令和5年11月18日(土)  
午後1時30分～3時30分

会場 御殿場市役所 東館3階 第1・2委員会室

連絡先 御殿場市議会事務局 電話 82-4323

# 福祉文教委員会議会報告会の計画

1. 日 時 令和5年11月18日(土)午後 1時30分 ~ 3時30分

2. 会 場 御殿場市役所 東館3階 (第1・2委員会室)

3. 目的とテーマ

(1) 報告会の目的

開かれた議会により、市民各界の皆様とのコミュニケーションをより一層深め、市議会が真にその役割を発揮し、輝きのあるまちづくりを推進していくことを目標として開催する。

(2) 今回の報告会のテーマと目的

① テーマ 『不登校児童・生徒への支援について』

② 目 的 共生社会の大切さとその具体的な課題の中で、特に学校教育における不登校の課題等に対し、議会として調査・研究を行ってきたことを、市内の教育・福祉の関係機関の方々にご報告し、またこれらの方々との情報交換やご意見を伺い、今後の教育行政の施策へ反映させていくこと。更にSDGsがこのことに求めている目標に向って私たちが果たすべき責任と、社会変革の方向性を考えていくこと。

4. 議会報告の対象者

(1) 御殿場市立の各小学校・中学校のPTA会長(副会長)

(2) 御殿場市教育委員会の社会教育委員

(3) 御殿場市民生委員児童委員協議会地区会長及び主任児童委員

< 報告会への出席者 ———— 別の資料を参照 >

5. 報告会の形式等について

当委員会から基調報告をし、その後本テーマについてグループワーク形式で話し合いを行うためグループを3つに分けて意見交換や問題・課題の抽出、また共有して取り組んでいくべきこと等を話し合う。

6. 報告事項 ———— 基調報告の内容 ————

(1) 当委員会の活動とこの報告会の趣旨及び不登校児童・生徒の現状と課題等について。

(2) グループワークの設定と話し合いの内容(情報や意見交換等)のこと、及びこれを基にした今後の議会での取り組み等について。

(3) その他

7. 質問や意見・提言等への対応について

グループワークで出席者から出された質問や意見・提言等については、委員会としてその内容をしっかり受け止め、必要な対応については委員全員で積極的に取り組み、具体的な形で教育行政等に反映させていく。また出席者へ回答すべきこと等があった場合には、適切に対応をする。

8. 報告会へ臨む福祉文教委員会委員(合計6人)

委員長 川上 秀 範 副委員長 土屋 光 行  
神野 義 孝 田代 耕 一 本多 丞 次 阿久根 真 一

9. 進行次第と担当者等

司会進行： 本多 丞次 委員

No	時間		次 第		担当者		
(1)	1:30	5分	開会の挨拶 (委員長)		川上 秀範		
(2)	1:40	5分	委員自己紹介 ( ☆ 出席者は別の名簿で進行係がご紹介し事務局員も進行係が紹介する。)		各委員 (進行係)		
(3)	1:40 ～ 2:00	20分	基調報告	「6の報告事項」による	委員長		
(4)	2:00 ～ 3:10	5分	グループ	<p>* グループ構成・進行内容・移動等についての説明</p> <p>テーマ &lt;各グループ共通&gt; 不登校児童・生徒への支援に向けて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">論 点</div> <p>支援の環境づくりをどのようにしていくか &lt;学校・地域・家庭・関係機関に求められること&gt;</p>	進行係		
				グループ	ファシリテーター (進行係)	書 記	備 考
				A	川上 秀範 委員長	神野 義孝 委員	
				B	土屋 光行副委員長	本多 丞次 委員	
C	田代 耕一 委員	阿久根真一 委員					
		15分	☆ グループワークの結果発表 <各グループの書記より>				
(5)	3:10 ～ 3:20	10分	☆ 出席者からの感想等				
(6)	3:20 ～	8分	委員長より総括とお礼の言葉		川上 秀範		
(7)	3:30	2分	閉会の言葉 (副委員長)		土屋 光行		



御殿場市議会 福祉文教委員会

**御殿場市議会 福祉文教委員会  
令和5年度 議会報告会**

**テーマ：**

**不登校児童生徒の支援について**

**日時：令和5年11月18日（土）**

**場所：御殿場市役所 東館3階 会議室**

# 次 第

1. 開会のあいさつ
2. 委員自己紹介
3. 基調報告
4. ワークショップ（分散会）の説明
5. ワークショップの実施
6. 各ワークショップの発表
7. 質疑応答
8. 参加者感想
9. お礼の挨拶
10. 閉会の挨拶

# 福祉文教委員会メンバー紹介

※委員長・副委員長以下は議員名簿順

委員長

川上 秀範



副委員長

土屋 光行



委員

阿久根 真一



委員

本多 丞次



委員

神野 義孝



委員

田代 耕一



# 令和5年度 御殿場市議会 福祉文教委員会

---

## 行政視察基調報告

日時：令和5年11月18日（土）



# 本日の基調報告の目次

## 1. はじめに

- 1) 委員会年間テーマについて
- 2) 視察選定先

## 2. 日程、視察先及び事業内容

- 1) 香川県坂出市 高齢者保健と介護予防の一体的事業
- 2) 愛媛県四国中央市 ICT教育の活用、デジタル・シティズンシップ<sup>o</sup>について
- 3) 愛媛県松山市 学校部活動の地域移行について
- 4) 愛媛県松山市 教育支援センター「不登校総合推進事業」

## 3. 視察後から現在

- 1) 不登校児童生徒の現状
- 2) 委員会として
- 3) 後期行政視察

## 4. まとめ



# 1. はじめに

## 1) 委員会紹介と年間テーマについて

### 福祉文教委員会

⇒ **健康福祉部 及び 教育部を所管**

前年・前々年度

「インクルーシブ保育」を年間テーマとして調査研究後、議会報告会を実施

◆インクルーシブ保育 ⇒ 健康福祉部所管の事業

今年度は、全ての児童生徒が対象となる

**「教育環境の充実化」**

を年間テーマとすることに委員会協議会にて決定。

◆教育 ⇒ 教育部所管の事業



# 1. はじめに

## 2) 視察選定及び目的について

委員より出された年間テーマに沿った視察先選定の事業例

- ・教育ICT推進（GIGAスクール）
- ・部活動の地域移行
- ・不登校児童生徒支援
- ・いじめ対策
- ・児童虐待等防止事業



様々な角度から**教育環境の充実化**を図るため  
先進地への視察選定が行われた

## 2. 日程、視察先及び事業内容

令和 5年 7月 3日 ~ 7月 5日 (3日間)

- 1) 香川県坂出市 高齢者保健と介護予防の一体的事業について
- 2) 愛媛県四国中央市 ICT教育の活用、デジタル・シティズンシップについて
- 3) 愛媛県松山市 学校部活動の地域移行について
- 4) 同 上 教育支援センター「不登校総合推進事業」について

## 2. 日程、視察先及び事業内容

@坂出市庁舎

### 1) 香川県坂出市

### 高齢者保健と介護予防の一体的事業について

#### 特色のある施策

①坂出医師会ブルーカード

②在宅医療と介護の連携

#### 本市の状況

➡令和4年度から健康推進課に一体化チームを編成

## 2. 日程、視察先及び事業内容

@川之江小学校

### 2) 愛媛県四国中央市

ICT教育の活用、デジタル・シティズンシップについて

#### 特色のある施策

①StuDX Style 授業改善、オンライン授業

②教員研修プログラム

③チャレンジプログラム 活用事例の充実・発展

民間企業の活用⇒Google,ロイロノートとの提携

## 2. 日程、視察先及び事業内容

@松山市庁舎

### 3) 愛媛県松山市 スポーツ庁地域部活モデル事業を実施

#### 学校部活動の地域移行について

『公立中学校の部活動』 2023年度から3年で移行を目指す

休日の活動を学校から切り離し地域のスポーツクラブなどに移行

松山市内公立中学校29校、部活動数286部活の内  
4校7部活（全体の約2.5%）で地域移行実証事業を実施

核をつくり今後徐々に拡大

#### 課題

- ① 休日部活動における顧問教員・地域団体・スポーツ指導者の役割分担の明確化及び調整
- ② 地域移行に伴う生徒や保護者、地域の理解
- ③ 平日の指導との一貫性を保護するための顧問教員の指導へのかかわり方
- ④ 地域移行した部活動と現行体制のままの部活動の格差の是正
- ⑤ モデル事業実施後に恒久的に継続する上での費用負担の在り方等

## 2. 日程、視察先及び事業内容

@教育支援センター

### 4) 愛媛県松山市

#### 教育支援センター「不登校総合推進事業」について

#### 『子ども総合相談センター』の設置

相談窓口の一本化・・・不登校、虐待、発達障害、いじめ等

**Point** : 児童生徒、保護者にそれぞれ 1 名専属職員

#### 3つの相談業務

教育支援センター

- ・不登校総合推進事業・・・個別支援、適応指導教室
- ・問題行動等対策事業・・・個別支援、学校訪問
- ・幼児教育相談事業・・・就学前園児、保護者支援

本施設の目標⇒×学校に戻す⇒『**社会復帰**』

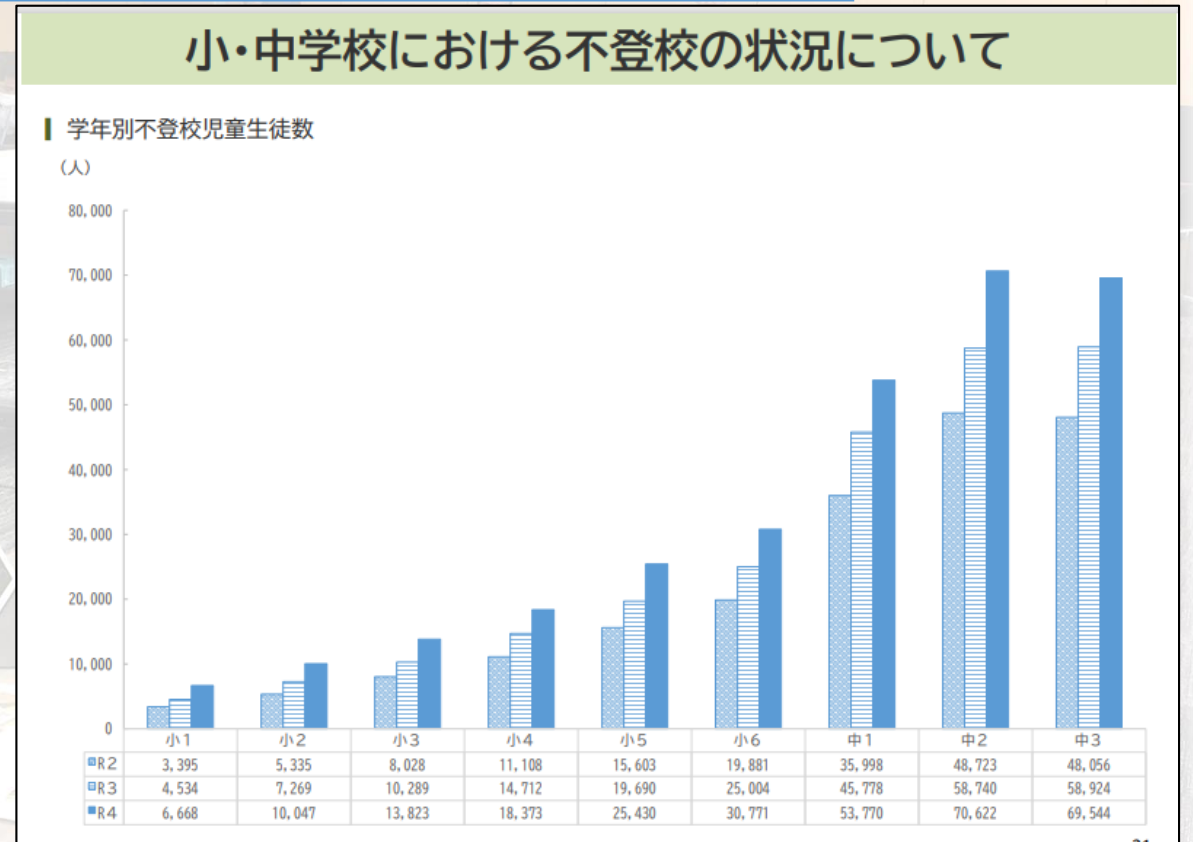
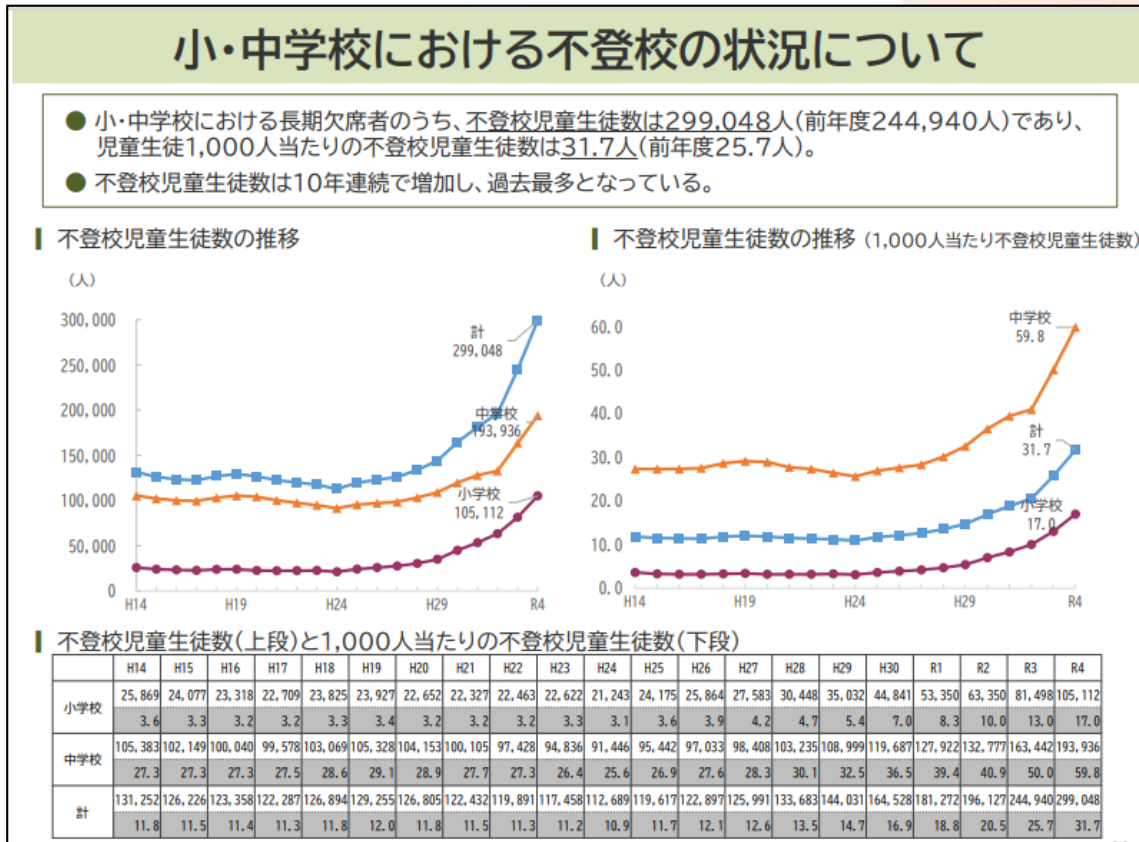


# 3. 視察後から現在

## 1) 不登校児童生徒の現状



- ・不登校児童生徒数 299,048人
- ・10年連続で増加、過去最多



本市の不登校児童生徒の状況 (令和3年度時点)

中学生20人に1人、小学生83人に1人が不登校・不登校予備群

# 3. 視察後から現在

## 2) 委員会として

教育部を所管する委員会として、この『不登校』問題の現況を少しでも把握していこうという前向きな意見に対し、委員会メンバー全会一致。さらに研究を進め深掘りをしていくこととなった。



令和5年9月5日 意見交換実施

◆不登校児童生徒を持つ（もしくは過去に不登校であった）経験をされた保護者との意見交換会を実施

更なる調査・研究の実施

## 3. 視察後から現在

### 3) 後期行政視察 山梨県甲府市

#### 児童生徒支援センター「ステップ」、「あすなる学級」

#### ◆児童生徒支援センター「ステップ」

不登校・いじめ・特別支援教育に関する総合的な相談窓口

#### ◆「あすなる学級」

御殿場市は、令和6年4月より教育支援センター設立予定

学校に行けなくなった児童生徒の受け皿として市内3カ所設置

Point

両事業の課題 『人材確保』

# 4. まとめ

委員会年間テーマ

教育環境の充実化



新たな課題

不登校児童への支援



ご清聴ありがとうございました。